

南部高等学校

実施日時	令和元年11月5日(火)
参加者	生徒578名、教職員47名、地域住民等0名 計625名
実施内容	避難訓練及び防災講座

ねらい

南海トラフ地震等による津波から、いち早く避難する経路及び避難場所の確認をすることともに、避難経路上の注意すべき箇所について把握させる。

また、津波に関する知識を深めるとともに、高校生として避難時にできることについて考えさせる。

プログラム・概要

開始	内容	場所	備考
10:00	情報伝達訓練	HR教室	・緊急地震速報(訓練報)を受信
	シェイクアウト(地震の際の安全確保行動)訓練	HR教室	・ドアの開放 ・まず低く、頭を守り、動かない
10:03	津波避難訓練	避難経路 →猪野山	・便宜上、教室は施錠 ・クラス毎整列し、集合後点呼
10:30	講評	猪野山	・終了後、学校へ
11:15	防災講座(DVD視聴)	新体育館	「津波から命を守る！」(徳島県チャンネル) 津波避難に関する解説
12:30	感想記入・総括	HR教室	

参加者感想文

今までの避難訓練のルートと違い、遠回りのような感じだったけど、新しいルートを知れて良かったです。でも、逃げ道が他に全然分からないし、駅に南高生がたくさん集まってて混雑してたから、避難場所までの行き方が他にもあったほうがよかったと思う。

また、踏切のところを通らないと山に行けないルートしか知らないけど、踏切も危ないと思った。また、逃げる最中に車にひかれたりしないように気をつけたいと思った。

実施日時	令和2年1月21日（火） 1月23日（木）
参加者	生徒135名、教職員30名、地域住民等0名 計165名
実施内容	救急救命講習（心肺蘇生法・AED体験講習）

ねらい

事前に消防署員による教員研修を行った上で、後日、消防署員の監修の下、教員が生徒に教示することで、生徒及び教員の救急救命に係るスキルアップを図る。

プログラム・概要

1学年6クラスの生徒を対象に、クラスごとに50分間の実技講習を行った。

講師となる教員を1クラス5名配置し、5班に分かれて1班5名程度の生徒に講習を行った。

講習の内容は、以下のとおり。

- ① 消防署員による救急救命の意義と効果
- ② 班に分かれての救急救命法の実技講習（心肺蘇生及びAEDの扱いについて）

成果と課題

学校周辺の地域の方々とも、津波避難に関する対応や情報共有をする機会が増えている。また、本校の校舎が一次避難場所に指定されていることもあり、みなべ町及び区とも連携しながら備品確認や、地域住民の方に校舎を開放しての避難訓練を実施している。このことは地域も学校も防災に対する意識が高まっていると捉えている。地域とのつながりを考えて、きのくにコミュニティスクールとして、地域ぐるみで防災について考えることも、一つの取組であると考えている。

また、本校は、津波避難経路にJR線をくぐる地下道を指定しているが、ここでの転倒や人の殺到によりパニックに陥ることが予想され、危険視しているところである。ただし、迂回するなどすると時間がかかること等、避難経路に課題があるのも事実である。今年度は、試験的に地下道を通らない避難経路での避難を実行し、多様な避難に対応できるようにしたが、本経路では従来よりも遠距離となるため、避難に時間がかかることがわかった。また、町中を通ることため、地域住民とも競合し混雑も予想された。今後は、課題解決に向けて、生徒の安全を確保するための方などについても検討する必要がある。

ここ数年AED講習及び津波避難訓練とセットにして高校生防災スクールを実施しているが、生徒の関心も高まり、防災意識の向上に役立っていると感じている。さらに、本年度は、生徒だけでなく教員のスキルアップも含めたAED講習に切り替え、緊急時の速やかで適切な対応を目指した。ただし、学校行事の都合上、1日開催の防災スクールの実施には至っていない。地域の方々とも連携した防災スクールの視野に入れて、今後も検討したい